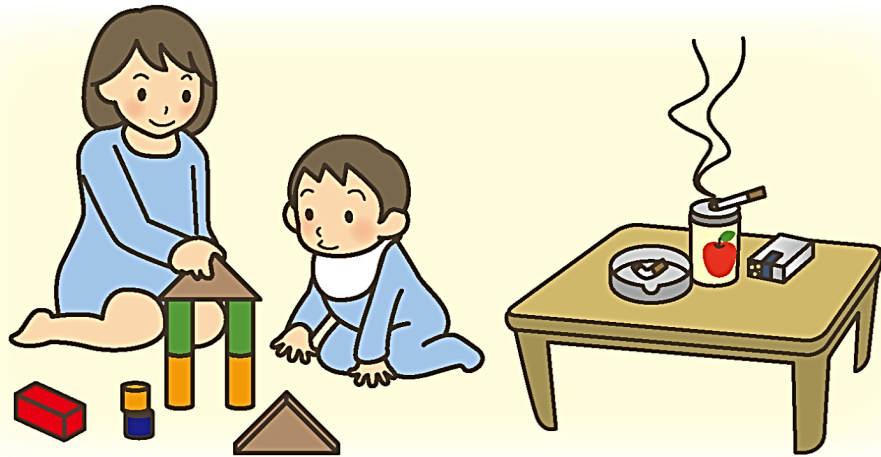




ものがつまる・誤って飲みこむ

1 こんな時、どのような事故が起きるか想像してみましょう。(危険予知トレーニング)



事故予防のためのチェックリスト

- 子どもが飲み込めそうなおもちゃや文房具などが落ちていませんか。
- 灰皿以外のものを灰皿として使用していませんか。
- 灰皿などは子どもの手の届かない場所に置いていますか。

事故例



積み木を口に入れる



灰皿にしていたジュースの缶の中身を飲む



灰皿のたばこを口に入れる

— 「ものがつまる・誤って飲みこむ」は高齢者と乳幼児で多く発生しています。 —

2 主な事故 (実際にあった事例です)

高齢者

- 食べ物(もち、ゼリー、バナナなど)がのどにつまった
- 薬の包装を誤って飲み込んだ



大人

- もちがのどにつまった



子ども

- おでんの油揚げと一緒に楊枝を飲み込んだ

乳幼児

- おもちゃの部品を鼻に入れて取れなくなった
- 置時計に入っていたボタン電池を飲み込んだ
- 1円玉を飲み込んだ



3 事故予防対策



もちなどは小さめに

食べ物がのどにつまる事故が発生しています。もちなどの、のどにつまりやすいものは小さめに切りましょう。

周囲の方が注意

乳幼児は好奇心で物を飲み込んだり、鼻や耳に入れたりします。周囲の方は日頃から十分注意してください。



口にもものがつまった場合、窒息し、重大な事故となることがあります。小さいお子さんがいるご家庭では日頃から整理整頓を心がけましょう。

